



給食だより

鳥栖市教育委員会
令和7年 1月発行



あけましておめでとうございます。寒さが厳しい季節ですが、よく食べ、よく体を動かして、夜はしっかり休み、元気に過ごしましょう。本年も皆さんの健やかな成長を願っています。

給食の歴史～全国学校給食週間～

この週間は、「学校給食の意義、役割等について児童生徒や教職員、保護者、地域住民等の理解と関心を高め学校給食のより一層の充実発展を図ること」を目的としています。学校給食は明治時代に始まり、戦争による食糧不足で中断されました。終戦後の昭和21年12月24日に東京、神奈川、千葉の3都県の学校で試験的に再開されたことから、12月24日を「学校給食感謝の日」とされましたが、冬休みと重なるため、1月24日を「学校給食記念日」とし、1月24日から30日までの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。

～給食の歴史～



明治22年【給食のはじまり】

学校給食は、山形県の忠愛小学校でお弁当を持ってくることが出来ない子ども達のために「おにぎり・焼き魚・漬物」の昼食を出したことが始まりです。その後、戦争による食糧不足で中断されました。



昭和25年【完全給食の実施】

海外から小麦の援助を受けながらパン・ミルク（脱脂粉乳）・おかずの完全給食となりました。くじら肉は安価で貴重な栄養源として、よく登場しました。



昭和51年【ごはん給食の実施】

ごはん給食が始まりました。主食がパンしかなかった頃より、メニューの種類がとて増えました。

今の給食

現代の学校給食は、郷土料理や行事食を取り入れるなど、バラエティ豊かです。また、バランスの良い食事のお手本「生きた教材」としての役割も担っています。

昭和21年【給食の再開】

終戦後、子どもたちの栄養不足が心配され、海外からの援助物資により、学校給食が再開されました。脱脂粉乳とトマトシチューのみなど、簡単なものでした。



昭和40年代【脱脂粉乳から牛乳へ】

脱脂粉乳から牛乳へと切り替わり、パンやおかずの種類が増えました。揚げパンや麺類も提供されました。



～感謝の気持ちを持って食事しよう～

学校給食をささえてくれる人々は、みなさんの健やかな成長のために、日々、さまざまな努力や苦労を重ねています。学校給食を食べることができることを当たり前とは思わずに、感謝して残さず食べたり、食事のあいさつをきちんとしたりするようにしましょう。

